

応用斜面工学に関するシンポジウム論文集の和文原稿作成例

（1行空ける）

●●株式会社 正会員 応用 太郎
○○株式会社 賛助会員 斜面 花子
△△大学 正会員 工学 次郎

（1行空ける）

キーワード：●●●●，○○○○，△△△△

（1行空ける）

1. ページ設定とページ数

（1行空ける）

マージンは左右が 20mm，上方が 20mm，下方が 25mm 程度とし，2 段組で 1 段 25 文字 50 行を標準とします。段幅は約 82mm，段間隔は約 6mm です。

ページ数は原則 2 ページとし，最大 4 ページとします。5 ページ以上は認めません。論文集の信頼性，公正性，法人格をもった研究会の品位を貶める記述，商業的宣伝に偏った記述等については修正を求め，改善がみられない場合は掲載拒否することがあります。ご注意ください。

（1～2行空ける）

2. タイトルページ

（1行空ける）

タイトルページは 2 つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分（題目，所属，会員種別，著者，キーワード）：横 1 段組

(b) 本文部分：横 2 段組

このほかにヘッダが付きます。なお，ソフトウェアによっては，タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれることがあります。

（1行空ける）

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトルは A4 用紙の 1 行目にセンタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：MS ゴシック，12pt フォント

著者名：MS 明朝，11pt フォント

キーワード：MS ゴシック，10pt，3 語程度

（1行空ける）

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に 1 行のスペースを空けてください。句点は「.」，読点は「，」を使用し，「.」「。」は使用しないでください。

本文は 2 段組で，左右のマージンは 2cm ずつ，段と段との間のスペースは約 6mm とします。下辺のマージンは 25mm です。

本文には MS 明朝 10pt フォントを用いて下さい。英数字は Times New Roman を用いてください。

（1行空ける）

(3) ヘッダとフッタ

タイトルページのヘッダに「第〇回応用斜面工学シンポジウム論文集，2021年12月」を MS 明朝と Times New Roman の 9pt で入れます。ページ数については記入しないで下さい。事務局が最終原稿に入れます。

（1～2行空ける）

3. 一般ページ

（1行空ける）

2 ページ以降の通常のページは上辺のマージンを 20mm とします。それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

（1行空ける）

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

（1～2行空ける）

4. 見出し（見出しが 1 行以上に長くなるときはこの例のようにインデントして折りかえす

（1行空ける）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは 3 段階までとします。第 1 レベルの見出し（章）は MS ゴシックとし，1. 2. などの全角数字に続けて書きます。また，見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプル

から分かるように、上を1行、下を1～2行程度空けて下さい。

(1行空ける)

(2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し(節)もMSゴシックで、(1)(2)などの括弧付き半角数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し(項)は、a) b)などの片括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい。また、各見出しがページの最下行にこないように調整して下さい。

(1～2行空ける)

5. 数式および数学記号

(1行空ける)

式や数学記号は次の式(1)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1)$$

のように本文と独立している場合でも、 C_D 、 $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。ギリシャ文字のフォントはSymbolを用いてください。 $\gamma, c, \phi, E, G, \nu$ のように変数として意味をもつ記号はイタリックとし、A, B, Cのような変数として意味をもたない記号は立体としてください。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

(1～2行以上空ける)

6. 図表

(1行空ける)

写真はカラーでも結構です。ただし、印刷する場合は白黒です。

(1行空ける)

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部か下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図

表と文章本体との間には1行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特に図表キャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。

(1行空ける)

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

実験番号	水深(m)	流量 (m ³ /s)
1	2.5	10.0
2	3.8	20.0
3	4.5	30.0

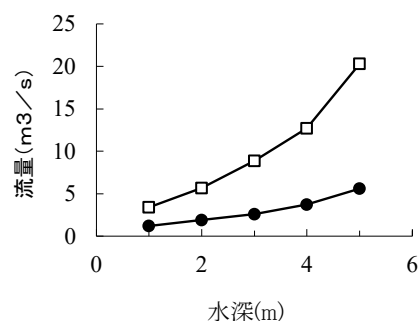


図-2 図のキャプションは図の下に置く。

(1～2行空ける)

7. 参考文献の引用とリスト

(1行空ける)

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように¹⁾上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。ページ数については、論文の場合、論文の最初のページと終わりのページとして「pp.00-00」、書籍の場合、書籍全体を参照した場合は、その全ページを「op.」、書籍などである頁を参照した場合はその参照したページを「p.0」のように記載します。ホームページを参照した場合は、参照元URLと参照年月日を明記してください。

(1～2行空ける)

8. 最終ページのレイアウト

(1 行空ける)

論文は 4 ページを越えてはなりません。また、最終ページは 1 段目と 2 段目の末尾の長さがほぼ揃うように調整して下さい。なお、原稿受理日は原稿の締め切り日とし、参考文献リストの最終行の次行に右詰めで書いて下さい。10pt の MS ゴシックを使用して下さい。

参考文献の後に、連絡担当の著者氏名、括弧書きで所属（部課名まで）、連絡可能な電話番号および電子メールアドレスを記載してください。

(1 行空ける)

謝辞：「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンを MS ゴシックで書き、その直後から文章を書き出して下さい。

(1 行空ける)

付録：「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置きます。

(1 行空ける)

参考文献

- 1) 鈴木素之, 梅崎健夫, 川上 浩: リングせん断試験における粘土の残留強度とせん断変位の関係, 土木学会論文集, No.575/III-40, pp.141-158, 1997.
- 2) 地盤工学会: 令和元年台風 19 号 (東日本台風) および 10 月末豪雨災害に関する調査報告書, https://www.jiban.or.jp/file/saigai/houkoku/R1_tphoon_houkoku.pdf, (2021. 6.14 参照).
- 3) Nguyen, T. D., Suzuki, M., Nguyen, V. H.: Rate and acceleration effects on residual strength of kaolin and kaolin-bentonite mixtures in ring shearing, Soils and Foundations, Vol.58, No.5, pp.1153-1172, 2018. (2021. 9. 1 受付)

(1 行空ける)

[著者代表連絡先]

工学 次郎 (△△大学▲▲学部□□学科)

電話: 0x-9999-9999

E-mail: xxxx.yyyy@zzzz-u.ac.jp